



リオ 2016 パラリンピック競技大会 女性アスリートへの 婦人科調査報告書

(公財) 日本障がい者スポーツ協会
日本パラリンピック委員会

JPC 女性スポーツワーキンググループ

リオ 2016 パラリンピック競技大会 女性アスリートへの婦人科調査 報告書

リオ 2016 パラリンピック競技大会 女性アスリートへの婦人科調査報告	3
1. 調査概要	5
2. 結果と考察	6
1) 女性アスリートの属性①	6
2) 女性アスリートの属性②	7
3) 婦人科受診の有無	8
4) 月経周期	8
5) 月経痛の競技に対する影響	9
6) 月経量	10
7) 月経前に見られる症状による競技への影響	10
8) 月経周期と主観的コンディション	11
9) 月経対策	12
10) 自身のコンディションについて	12
3. まとめ	13
4. 調査用紙	14
参考資料	17
1) Paralympic Games Qualification Guide	19
2) UNIVERSALITY WILD CARDS	20
3) IPC 「International Women's Day recognition」	21
4) APC 「女性スポーツ委員会」参加報告概要	22
5) IWBF AOZ 「Women's Development Camp」	25
JPC 女性スポーツワーキンググループについて	26

リオ 2016 パラリンピック競技大会
女性アスリートへの婦人科調査報告

1. 調査概要

1) 調査の目的

リオ 2016 パラリンピック競技大会に出場した女性アスリートを対象に、女性特有の身体的、心理的、環境的課題を明らかにし、日本の女性アスリートの競技力向上に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

2) 調査方法

リオ 2016 パラリンピック競技大会期間中に、日本代表選手団本部・日本パラリンピック委員会(JPC)を介して各競技団体に調査協力を依頼、参加の全女性アスリートに調査票を配付し、回収した。

3) 調査時期

リオ 2016 パラリンピック競技大会期間(平成 28 年 9 月 8 日～9 月 18 日)

4) 回収率

リオパラリンピック競技大会日本代表選手団の女性アスリート 46 名に配付、44 名から回収(回収率 95.6%)

5) 調査組織

JPC 女性スポーツワーキンググループ



2. 結果と考察

1) 女性アスリートの属性①

表 1. 出場種目 (n=46)

	%
アーチェリー	2.2
陸上競技	34.8
ボッチャ	2.2
カヌー	2.2
自転車	2.2
ゴールボール	13.0
柔道	8.7
ボート	2.2
射撃	2.2
水泳	15.2
トライアスロン	4.3
卓球	4.3
車いすテニス	6.5

表 2. 年齢・競技年数・出場回数

	平均±標準偏差
選手年齢(n=44)	32.9±11.7歳
競技年数(n=42)	11.2±6.2年
パラリンピック出場回数(n=43)	1.9±1.2回

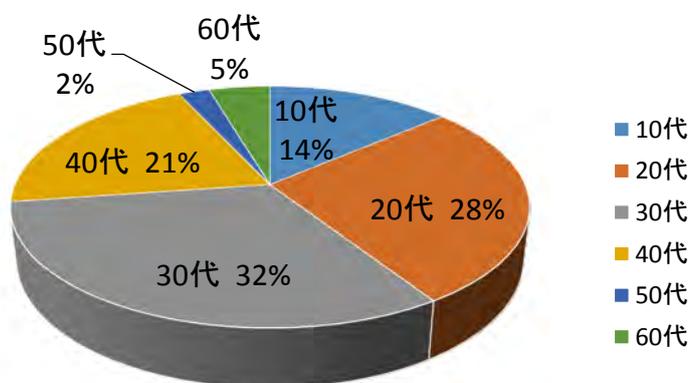


図 1. 女性アスリートの年代 (n=44)

「リオ 2016 パラリンピック競技大会」に参加した女性アスリートの属性を表 1、表 2 に示した。選手の平均年齢は 32.9 歳、競技の平均年数は 11.2 年であった。前回ロンドン大会の平均年齢は 33.3 歳、平均競技年数が 10.4 年であったことから、ロンドン大会より平均年齢は 0.4 歳下がっているものの、競技年数は 0.8 年上がっていることがわかる。近年のタレント発掘などの取組みにより、早い時期から競技に触れる機会が増加し、パラアスリートとして早期にトレーニングを開始できるようになった可能性が高いことが伺える。

さらに、図 1 に示した通り、女性アスリートを年代別にみると、20 代、30 代が最も多く、合わせて 6 割を超えている(図 1)。障がいを負ってから競技を始めるケースがあることに加え、体の一部として用具等を使いこなすには修練を要するパラスポーツの特性上、オリンピック選手よりもパフォーマンスのピーク年代が高いことが伺える。

2) 女性アスリートの属性②

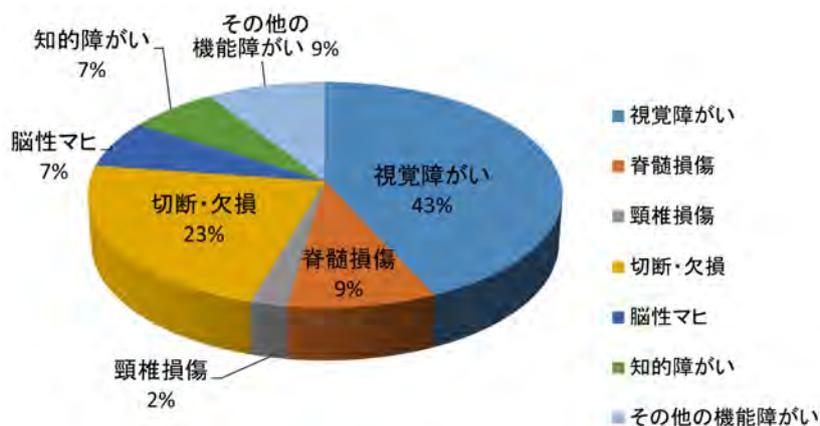


図 2. 障がいの種類 (n=44)

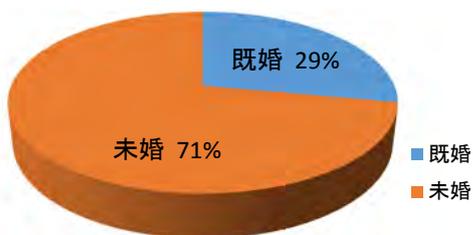


図 3. 結婚の有無 (n=43)

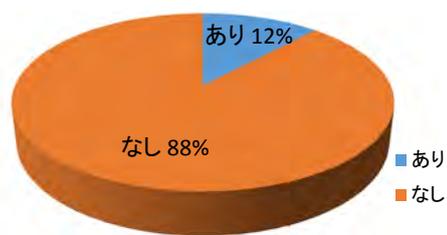


図 4. 子どもの有無 (n=42)

図 2 に、女性アスリートの属性として、障がいの種類別割合を示した。「視覚障がい」が 43% と最も多く、「切断・欠損」が 23% と続いた。ロンドン大会では、「切断・欠損」が 34.3% と最も多く、次いで「視覚障がい」が 31.4% だった。ロンドン大会では「切断・欠損」の選手を多く含むチーム競技が出場していたが、リオ大会では出場を逃したことから、リオ大会で初めて正式種目となった女子マラソン(視覚障がい)に出場したことが、障がいの種類別割合が大きく変化した要因と考えられる。

また、結婚の有無については、既婚が 29%、未婚が 71% となり、また、子どものいる女性アスリートは全体の 12% であった(図 3、図 4)。



3) 婦人科受診の有無

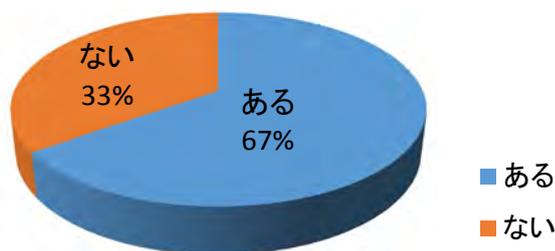


図 5. 婦人科受診の有無 (n=43)

💡 婦人科受診のうち、コンディショニング目的は…

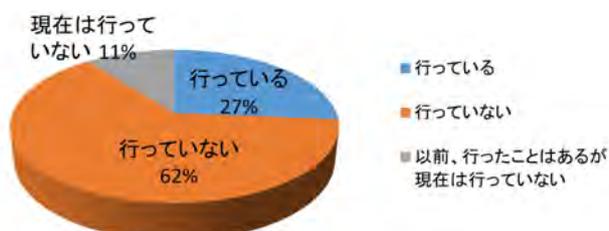


図 12. コンディショニング目的で月経対策を行なっているか (n=37)

これまでに婦人科を受診したことがあるかについて尋ねたところ、「ある」と答えた女性アスリートは 67%、「ない」と答えたのは 33%であった(図 5)。JPC が初めて調査を行った平成 21 年(2009 年)のデータによると、年 1 回の婦人科健診を「受けている」と答えた女性アスリートは 17.5%だったのに対し、「受けていない」は 73.7%と実に 7 割を超えていた。この結果からすると、今回の調査で婦人科受診の経験がある女性アスリートが 67%だったことは、近年の女性アスリートのコンディショニングに関する情報共有が進んだことが伺えるが、婦人科の受診経験のない女性アスリートが、トップクラスでさえ、未だ 3 割以上いることは、今後の教育啓発の課題といえる。

さらに、婦人科受診の中でも、コンディショニング目的で月経対策を行っている(婦人科を受診している)女性アスリートはわずか 27%という低い割合にとどまったことが明らかとなった(図 12)。

4) 月経周期

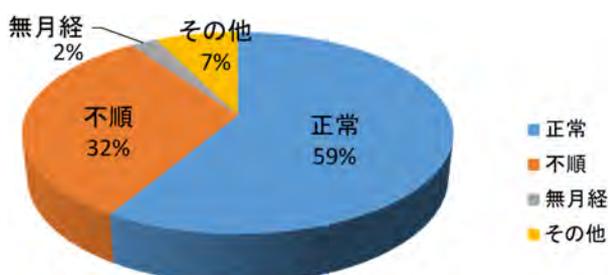


図 6. 月経周期 (n=41)

月経周期の状況について、図 6 に示した。「正常月経周期」のアスリートは 59%、「不順」は 32%、「無月経」は 2%、「その他」7%という結果となった。「その他」には、閉経も含まれており、年齢が高いパラアスリートならではの状況も明らかとなった。

国立スポーツ科学センター(JISS)調査では、オリンピック及び強化指定選手における無月経は 7.8%、月経不順は 32.9%であり、この結果と比較すると、パラアスリートでは無月経は少なく、月経不順は同じ頻度で見られることが明らかとなった。

5) 月経痛の競技に対する影響

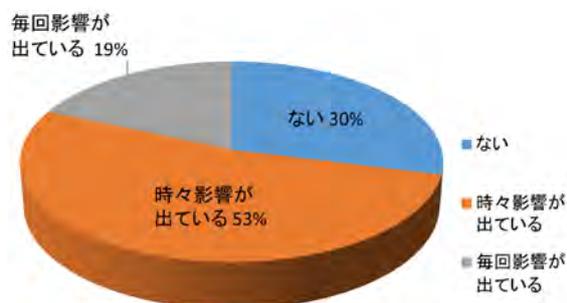


図 7. 月経痛の競技に対する影響 (n=38)

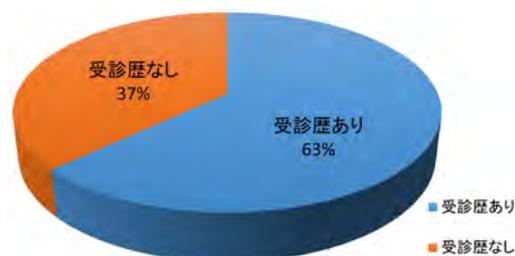


図 8. 月経痛が競技に影響を与えている女性アスリートの婦人科受診歴 (n=27)

月経痛が競技に影響を与えているかを聞いたところ、「時々影響が出ている」53%、「毎回影響が出ている」19%という結果となり、7割以上の女性アスリートが、月経痛が競技に影響を与えていると回答した(図 7)。さらに、月経痛が競技に影響を与えていると回答した女性アスリートのうち、「婦人科受診歴の有無」との関係を見たところ、月経痛が競技に影響を与えている女性アスリートの63%が婦人科を受診したことがあることがわかった(図 8)。しかし、約4割にあたる37%は、月経痛が競技に影響を与えているにも関わらず婦人科を受診したことがないことが明らかになり、ただ我慢するだけ、もしくは何らかの方法で自己判断・自己解決をしている可能性が示唆された。一方で、月経痛が競技に影響を与えている女性アスリートのうち、婦人科受診歴があるという女性アスリートの中にも、過去に受診の経験があるだけという可能性もあり、今現在、月経痛が競技に影響を与えていることに対して婦人科を受診しているかは不明である。女性アスリートがコンディションを良好に保ち、より良いパフォーマンスを発揮するために、その障害となり得る月経痛への対処法などについて、さらに詳しく把握していく必要性が示唆された。



6) 月経量

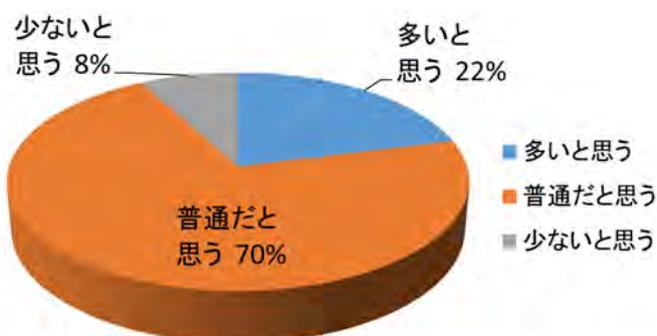


図 9. 月経量 (n=38)

月経量については、「普通だと思う」と回答した女性アスリートは70%で最も多く、次いで、「多いと思う」22%、「少ないと思う」8%となった(図9)。

7) 月経前にみられる症状による競技への影響

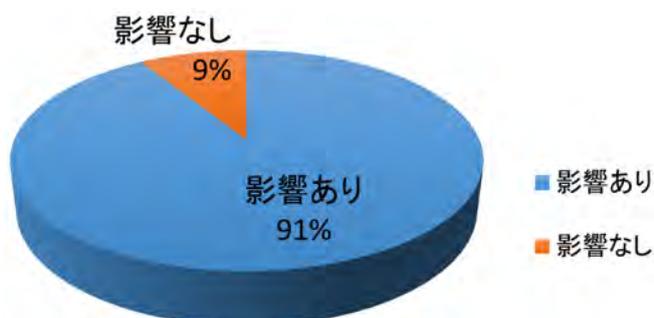


図 10. 月経前にみられる症状による練習や競技への影響の有無 (n=34)

表 3. 月経前にみられる症状で、練習や競技に支障があるもの(複数回答可)

	%	n
腰痛	15.2	17
いらいら(精神不安定)	14.3	16
気分の落ち込み	11.6	13
下腹部痛	11.6	13
胸の張り	9.8	11
眠気	9.8	11
むくみ	8.9	10
体重増加	8.9	10
食欲増加	1.8	2
頭痛	1.8	2
体の震え	0.9	1
寝汗が出る	0.9	1
倦怠感	0.9	1
下痢	0.9	1

109

月経前にみられる症状が、練習や競技に影響を与えているかを聞いたところ、実に91%の女性アスリートが「影響がある」と回答し、「影響なし」はわずか9%だった(図10)。月経前にみられる症状が、女性アスリートのパフォーマンスに大きく影響を与えていることが明らかとなる結果となった。

次に、表3には、月経前に見られる症状で練習や競技に影響を与えている具体的な症状について示したが、「腰痛」が15.2%と最も多く、次いで、「いらいら(精神不安定)」14.3%、「気分の落ち込み」と「下腹部痛」が11.6%と続いた。また、少数ながらも、「食欲増加」や「頭痛」「体の震え」「寝汗が出る」「倦怠感」「下痢」など、月経前に様々な症状がみられる女性アスリートがいることが明らかとなった。

8) 月経周期と主観的コンディション

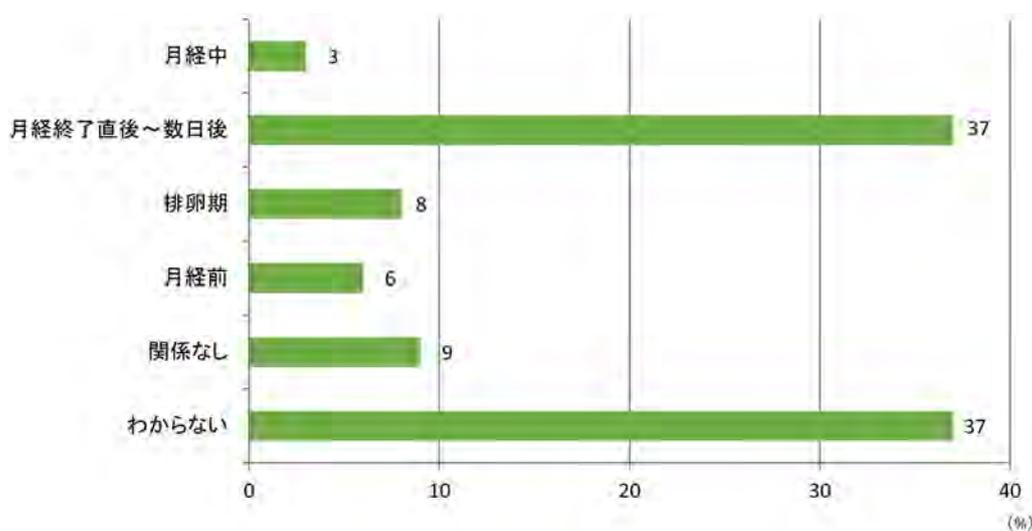


図 11-1. コンディションが最も良い時期 (n=35)

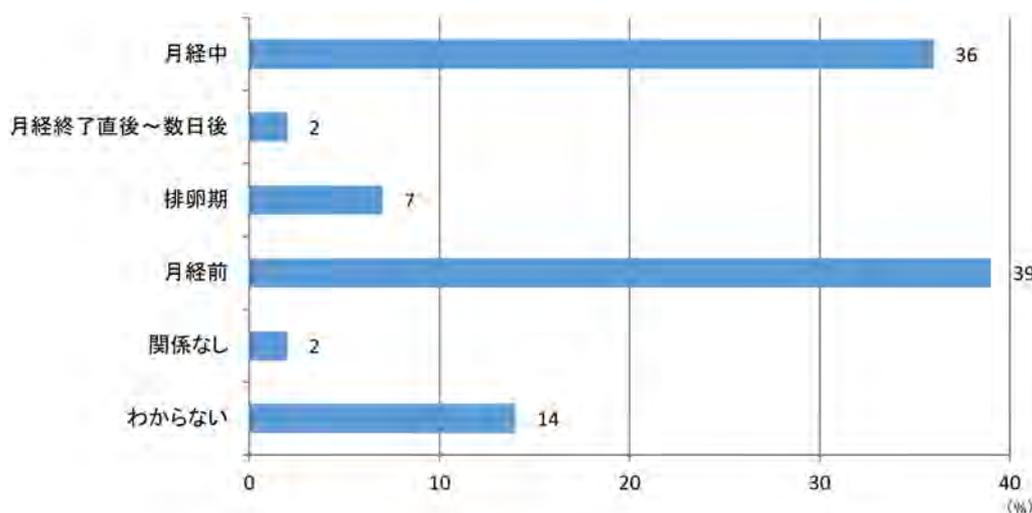


図 11-2. コンディションが最も悪い時期 (複数回答あり) (n=44)

月経周期のどの時期に最も主観的コンディションが良いか／悪いかについて尋ね、その回答を図 11-1、図 11-2 に示した。コンディションが良い時期は、「月経終了直後～数日後」が最も多く全体の 37% (図 11-1)、コンディションが悪い時期は、「月経前」が 39% で最も多く、次いで「月経中」36% だった (図 11-2)。月経中の疼痛のみならず、月経前の時期に、表 3 に示すような症状に悩まされている女性アスリートが多いことが明らかになった。これらの症状がコンディションやパフォーマンスに影響を与えている女性アスリートに関しては、医学的介入が必要であると考えられる。

また、コンディションの良い時期が「わからない」と回答している女性アスリートが 37% と全体の約 4 割を占めていることが明らかになった。

9) 月経対策

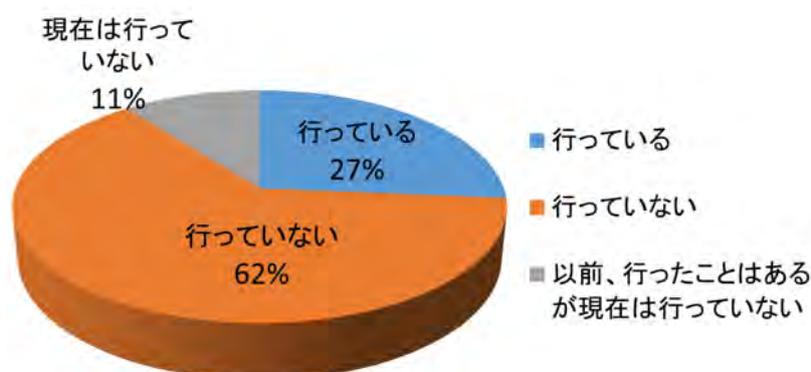


図 12. 月経対策を行なっているか (n=37)

表 4. 月経対策を行っている選手の具体的内容 (複数回答可)

	%	n
年間を通して、試合に月経が重ならないように月経調節を行っている	42.9	6
試合と月経が重なる時だけ、月経をずらしている	35.7	5
月経痛に対し、治療を行っている	14.3	2
月経不順や無月経に対し治療を行っている	7.1	1
		14

10) 自身のコンディションについて

表 5. 自身のコンディションについて (自由記述)

体重が増加しやすい
月経中の下痢に対して、薬を服用している
生理前になると気分が悪くなったり良かったりしがち
試合の時に、腰やおなかが痛くなる

図 12 の通り、コンディショニング目的で月経対策を行っているかについては、「行っている」が 27%、「行っていない」が 62%、「現在は行っていない」が 11% という結果となった。月経前の症状や月経中のコンディションの悪さをかかえながらも、リオ大会に参加した女性アスリートの 7 割以上が、月経対策を行っていないことがわかった。婦人科を受診率は 6 割を超えており高かったものの、コンディショニング目的で月経対策を行っている (婦人科を受診している) 女性アスリートはわずか 27% と大変低い結果となった。月経対策を行っている具体的内容では、「年間を通して試合に月経が重ならないように月経周期調節を行っている」女性アスリートが 42.9% と最も多く、次いで、「試合と月経が重なる時だけ月経をずらしている」35.7% となった (表 4)。

自身のコンディションについての自由記述 (表 5) は、月経に関係する内容が多く、コンディショニングに苦勞している女性アスリートの姿がみて取れた。競技力向上を目的とした、女性アスリートのコンディショニングに関する教育啓発機会の必要性が示唆された。

3. まとめ

婦人科の問題	割合
月経周期異常を有する女性アスリート(n=41)	34%
月経困難症により競技に影響が出ている女性アスリート(n=38)	72%
月経前にみられる症状が競技に影響を与えている女性アスリート(n=34)	91%
月経周期と主観的コンディションには関連があると感じている女性アスリート(n=44)	84%

婦人科受診率は67%という結果となり、2009年の調査と比較すると受診率は上昇しているが、コンディショニングを目的として婦人科を受診している女性アスリートは、わずか27%と少なく、女性特有の問題を抱えながら競技生活を送っているアスリートが多いことが明らかとなった。

本調査結果により...

競技力向上を目的とした女性アスリートのコンディショニングに関する教育啓発活動及び、症状に応じた支援の必要性が示唆された。



参考資料

1) Paralympic Games Qualification Guide

Rio 2016 Paralympic Games Qualification Guide (2016年5月版)

競技	Medal Events			Athlete Quota				備考
	男	女	混合	男	女	フリー	合計	
アーチェリー	3	3	3	80	60	0	140	
陸上競技	96	81	0	660	440	0	1100	
ボッチャ	0	0	7		28	80	108	チーム・ペア戦どちらかで1枠獲得したNPCは、最低でも女子選手1名を含むこと。チーム・ペア戦で2~3枠獲得のNPCは最低2名女子選手を含むこと
カヌー	3	3	0	30	30	0	60	
自転車	28	20	2	150	80	0	230	
馬術	0	0	11	0	0	78	78	
5人制サッカー	1	0	0	64	0	0	64	
7人制サッカー	1	0	0	112	0	0	112	
ゴールボール	1	1	0	60	60	0	120	
柔道	7	6	0	84	48	0	132	
パワーリフティング	10	10	0	100	80	0	180	
ボート	1	1	2	48	48	0	96	Double Sculls TAMix2xの種目へは男女1名ずつ、Coxed Fours LTAMix4+の種目へは男女2名ずつでエントリーすること
セーリング	0	0	3		11	69	80	Two-Person Keelboatの種目は最低でも女子選手1名を含むこと
射撃	3	3	6	100	50	0	150	
水泳	80	71	1	340	280	0	620	
卓球	16	13	0	174	102	0	276	
トライアスロン	3	3	0	30	30	0	60	
シッティングバレー	1	1	0	96	96	0	192	
車椅子バスケットボール	1	1	0	144	120	0	264	男子12チーム、女子10チーム出場
車いすフェンシング	8	6	0	52	36	0	88	
ウィルチェアーラグビー	0	0	1	0	0	96	96	出場4名の中に女子選手が含まれる場合は、0.5点の追加ポイントが許可され、チームの合計は8点を越えることが許される(最大4名で10点)
車いすテニス	2	2	2	最大56	32	16(クアド)	104	
合計	265	225	38	2380	1631	339	4350	

PyeongChang 2018 Paralympic Winter Games Qualification Guide (2017年1月版)

競技	Medal Events			Athlete Quota				備考
	男	女	混合	男	女	フリー	合計	
アルペンスキー	15	15	0	130	60	0	190	
クロスカントリー	9	9	2	100	70	0	170	
バイアスロン	9	9	0					
アイス(スレッジ)ホッケー	0	0	1	136※	8	0	144	※チーム構成は男子17名か、女子1名以上が含まれていれば18名構成にしてよい
スノーボード	6	4	0	70	36	0	106	
車いすカーリング	0	0	1	12※	12※	36	60	※チームに男女どちらも入れなくてはならない
合計	39	37	4	448	186	36	670	

2) UNIVERSALITY WILD CARDS

ロンドン	リオ
<p>OVERVIEW In each summer edition of the Paralympic Games, the IPC has instituted a qualification slot allocation method to uphold the Paralympic Programme Guiding Principles associated with Universality. This slot allocation method is called the IPC Universality Wild Card (UWC) system and is achieved on a per invitation basis to eligible National Paralympic Committees within eligible sports.</p>	<p>概要 夏季のパラリンピック大会において、IPCはユニバーサリティ(普遍性、広汎性)と結び付けられたParalympic Programme Guiding Principles(パラリンピックプログラム指導原則)を支える枠の割り当て方法を設けている。この割り当て方法はユニバーサリティワイルドカード(UWC)と呼ばれ、対象競技で資格のあるNPCへの招待を原則に行われる。</p>
<p>The eligible sports include: ・ Athletics ・ Powerlifting ・ Swimming For the London 2012 Paralympic Games, the IPC has devised specialised policies to achieve universality targets on both games-wide and sport-specific basis looking to ensure full usage of the 4,200 athletes target quota and increase global participation. The primary policy to this end includes the General UWC Allocation Policy.</p>	<p>対象競技には以下のものが含まれる: ・陸上競技 ・パワーリフティング ・水泳 ロンドン2012パラリンピック競技大会のためにIPCは大会全体と競技個別の双方の点において、普遍的なターゲットを獲得するのに特化した方針を立案した。これは4200名分の枠を最大活用し、世界中からの参加を増やすためである。この目的を達成するための重要な方針については「General UWC Allocation Policy (UWC一般割り当て方針)」に記載がある。</p>
<p>Criteria for Consideration NPCs with no Qualification Slots allocated are eligible for UWC consideration and may be granted a maximum of one (1) male UWC slot and/or one (1) female UWC slot(s).</p>	<p>検討の基準 クオリフィケーションの枠を1つも獲得していないNPCはUWCの対象となり、最大で男女1枠ずつ、もしくはいずれかの1枠を与えられるかもしれない。</p>
<p>APPLICATION PROCESS The IPC will release the UWC application form to eligible NPCs in the beginning of 2012.</p>	<p>申請方法 IPCはUWCの申請方法について、2012年の初旬に資格のあるNPCへ発表する。</p>
<p>UNIVERSALITY WILD CARDS In each edition of the Paralympic Games, the IPC institutes a slot allocation method to uphold the Universality principle and to ensure representation of a maximum number of eligible member NPCs. This slot allocation is called Universality Wild Card (UWC) method and is by invitation only. No athlete and no NPC is entitled to receiving a UWC. All UWC decisions are final with no opportunity for protest or appeal.</p>	<p>各パラリンピック大会において、IPCはユニバーサリティ(普遍性、広汎性)の原則を支え、また参加資格のある加盟NPCの最大数が参加できるようにするための枠の割り当て方法を設けている。その割り当て方法がユニバーサリティワイルドカード(UWC)であり、招待のみによって行われる。いずれの選手・NPCへも割り当てを保証するものではない。UWCについての決定は全て最終的なもので、抗議や上訴を行う機会はない。</p>
<p>Such invitations may be extended if an NPC has been unable to qualify athletes in any of the 22 sports on the programme or if an NPC has obtained only one (1) qualification slot. The UWC slot is allocated to the individual athlete, not to the respective NPC. If an NPC qualifies athletes via the regular qualification pathways after one of their athletes has been granted a UWC, the UWC is revoked and the properly qualified athlete obtains the slot.</p>	<p>対象となるのはリオの大会プログラム22競技中、出場枠を獲得できた選手が1人もいなかったか、1枠のみ獲得できたNPCである。UWC枠は選手個人へ割り当てられ、NPCに割り当てられるのではない。ある選手がUWCを受け取った後にNPCの所属選手が通常のクオリフィケーション方法で枠を獲得したNPCがあった場合、UWCは無効となり、枠を獲得してきた選手がその枠を手に入れる。</p>
<p>UWC slots fall outside the athlete quotas published in this Guide. For the Rio 2016 Paralympic Games the IPC will consider granting UWCs in the following sports: ・ Athletics ・ Swimming A maximum of one (1) male UWC slot and one (1) female UWC slot may be granted if an NPC has not obtained any qualification slot otherwise. NPCs who have obtained only one (1) qualification slot (irrespective of gender) may be given one (1) female UWC slot in addition.</p>	<p>UWCの枠は本ガイドで発表されている選手割り当ての範囲外である。リオ2016パラリンピック競技大会では、IPCは以下の競技についてUWCを供与する: ・陸上競技 ・水泳 いずれの枠も獲得していないNPCへは、最大で男女1枠ずつのUWCが与えられるかもしれない。既に1枠(性別不問)獲得しているNPCへは、追加で女子のUWC1枠が与えられる可能性がある。</p>
<p>Criteria for Consideration In order to be considered for a UWC athletes must meet the following conditions: ・ comply with the General IPC Regulations on Eligibility as published in this Guide; ・ comply with the Athlete Eligibility Criteria for their respective sport as published in this Guide. This entails meeting all requirements for licensing and classification at the time the UWC is awarded; and ・ be on the "Accreditation Long List" as described under Key Dates below.</p>	<p>検討の基準 選手がUWCの対象となるためには、以下の条件を満たさなければならない: ・本ガイド中の「General IPC Regulations on Eligibility (参加資格に関するIPC一般規則)」に従うこと ・本ガイド中各競技の「Athlete Eligibility Criteria (選手参加資格基準)」に適合していること。必然的に、UWCを受け取ったときにはライセンスやクラス分けについての要件を全て満たしていること。また、 ・後述の締切日までにアクレ申請を行い、ロングリストに掲載されていること。</p>
<p>Athletes who do not meet these criteria will not be considered for a UWC. The IPC Governing Board reserves the right to award a UWC under exceptional circumstances irrespective of the above criteria and in any sport.</p>	<p>これらの条件を満たさない選手についてUWCは検討されない。 あらゆる競技について上記基準に関係なく例外的な状況においては、IPC理事会がUWCを供与する権利を持つ。</p>
<p>Application Process The IPC will announce the UWC application process one (1) year prior to the Rio 2016 Paralympic Games.</p>	<p>申請方法 IPCはUWCの申請方法についてリオ2016パラリンピック競技大会の1年前に発表する。</p>

London 2012 Paralympic Games Qualification Guide (2009年12月版)より

Rio 2016 Paralympic Games Qualification Guide (2016年5月版)より

3) IPC 「International Women's Day recognition」

毎年3月8日の国際女性デーにあわせて、IPCでもパラリンピックの精神を具体化し女性たちに刺激を与えた人物に対し表彰を行っている。

選考方法:IPCの加盟団体からの推薦を受け、IPC女性スポーツ委員会が決定

対象:個人/団体、性別不問

これまでの表彰者

年	氏名	国	経歴
2013	Sylvana Mestre	スペイン	IPC アルペンスキー技術委員長 障がい者(能力、性別、年齢問わず)とその家族がスポーツやレジャーを行えるよう支援する団体を立ち上げ、活動を行っている。
2014 (※ソチパラ開催中)	Rima Batalova	ロシア	ロシアパラリンピック委員会副会長、ソチ冬季パラリンピック大会組織委員会 パラリンピアン(陸上:金メダル獲得数13個) ロシアでのパラスポーツの振興に貢献した。
2015	Chantal Petitclerc	カナダ	パラリンピアン(陸上:金メダル獲得数14個) カナダ勲章(Order of Canada)受勲 引退後はカナダ選手団団長(リオ2016、2014年コモンウェルスゲーム)なども務める。女性アスリート(パラリンピアン)のロールモデルとして表彰。
2016	Carla Qualtrough	カナダ	パラリンピアン(水泳:銅メダリスト) カナダのスポーツ・障がい者大臣(Minister of Sport and Persons with Disabilities) その経歴から、スポーツ界に与える影響とリーダーシップを評価された。

役職等は当時の情報です。

4) APC 女性スポーツ委員会 報告概要

1. 期日：2016年11月27日(日)
2. 場所：バンコク ヒルトンホテル
3. 参加者：大久保春美 興品美由紀(通訳)
4. 委員会メンバー
(出席) Anisa Alhooti(委員長・オマーン)、Adeline Dumapong(フィリピン)、
Ibtisam Alsuwaidi(アラブ首長国連邦)、Parveen Qadir Agha(パキスタン)、
Harumi Okubo(日本)
(欠席) Fatemeh Rakhshani(イラン)、Mi Jung Kim(韓国)、
Shakuntla Nagarkoti(ネパール)、Teo-Koh Sock Miang(シンガポール)、
Navruzakhon Yuldasheva(ウズベキスタン)
5. 概要と所感

《会議について》

- ・各国の現状報告や質疑、今後の取り組み課題を整理しながら進められた。予め提出を求められていた、今後のAPC女性委員会の取組課題については、日本、オマーン、パキスタンのみ提出。
(日本からは別紙 How to Develop “Woman in Sports” in Asia を提出)
- ・日本が行っているようなサポートをアジア全体に広げるべき今後アジアでの女性スポーツセミナーを開催する場合には、日本のレクチャーを求めるという声が大きかった。
→設置予定のJPC女性スポーツ委員会や国内関係機関の協力を得ながら、アジアにおける女性アスリート支援へとつながるように進める。
- ・今後他の委員会との情報共有や協働により進めていくことが望ましい。またインターネットを通しての調査や情報提供だけでも進めることが重要であると考えられる。

《報告事項および今後の計画》

- ・今回の委員会では **2017-2018、2年間のストラテジックプラン策定**が目的。
- ・2015年委員会/委員就任以降、女性スポーツに関する事業については実現していない。
- ・会長/理事会からも「2年間を無駄にしている現状から今後効率的に進める」「本委員会の発展のため、ITツールの使用等も検討し、アジアが世界をリードできるようになって欲しい」とのコメントあり。
- ・活動しているNPCのうち女性の活動があまり活発でないところについてのアプローチ。
- ・IPC/APCのイベントの中で本委員会からのプレゼンの機会をもらえるよう理事会を通じて申し入れる。
- ・活動費の100% APC負担は難しい。APCでのマーケティング活動で得た資金を委員会へ配分いただくよう公式レターを出す。細則等の作成も着手する必要がある。

《課題と現状》

- ・現在の委員会の問題点は、地域内のNPCとコミュニケーションが取れないことにある。
- ・サウジアラビア、イエメン、アフガニスタン、バングラディッシュ等の国内状況は良くない。
- ・データはIPC SDMSの情報しかなく、データ収集のためのフォーマットを準備中。
- ・いずれの大会へも女子参加が増える仕組み作りを継続して行う必要あり。
- ・男子が居るから等の理由で参加が出来ない国は依然として存在する。
- ・委員会事務所が無いので委員による分業が必要。委員会はボランティアワークであり、関わる委員の可能な限りの協力サブリージョンの連絡役を求む。

《各国の現状報告》

フィリピン

- ・ 2005年のアセアンゲームまでは3名程だった競技者が大会を機に50名くらいまで増えたが、2015年の調査では結婚や出産等を理由に17名まで減り、2016年より政府の支援を受け、また協力をしながら選手増加への取り組み開始した。
- ・ フィリピンでのパラリンピックの認知度は10%以下。障がい者を隠すような文化がある。
- ・ フィリピンは非常に多くの島からなるので、何かを行うときは小さな規模から始める必要あり。

UAE

- ・ 政府からの支援あり(2017年～助成金のうち一定の額を女子選手に使うこととなった)。
- ・ 毎年スポーツをする女性、スポーツに関わる女性の人数は増加しており、女性についての制限は殆ど無い(外に出る、スポーツをする等)。
- ・ UAEは日本をモデルにして活動している。

サウジアラビア

- ・ 女子だけの大会は、国内レベルの大会(非公認、クラス分け無し)のみ行っており、IPCの国際大会へは参加できていない。

パキスタン

- ・ スポーツへの参加は積極的ではない風潮があり(陸上は取り組み易い競技の一つであるが、パキスタンでは水泳は厳しい)資金・人材・物等足りないものは多い。

日本

- ・ 医療技術の高さ・社会保障の充実から高齢化が顕著であり、このような背景から、選手の高齢化や若くて強い選手が少なくなっていることは金メダル獲得が出来なかった大きな理由だと考える。
- ・ 女子選手に特化すると、結婚・出産で競技を離れる選手が居る。その選手のサポートができるよう、大会期間にキッズルームを設置し、女性が大会に参加できるような支援体制をつくっている。
- ・ トレーニングは主に男子選手向けに生まれ、女子選手は100%同じであることによる弊害もある。月経不順、身体の男性化、栄養の偏り、疲労骨折、最悪なケースでは子どもが産めない等
- ・ コーチも男性が多く、女性の身体のことを知らないことが多い。

※補足

アジアパラリンピック委員会(APC)とは

2006年11月、2006年マレーシアのクアラ・ Lumpurで開催された第9回フェスピック競技大会後、アジアパラリンピック評議会とフェスピック連盟が合併し、「アジアパラリンピック委員会(APC)」となる。

How to Develop “Woman in Sports” in Asia

Introduction

Persuasive opinions to the relevant organization is required for the development of WiSC in Asia

Official approaches to the APC GB from WiSC is required

Pathway



① Identification

Collecting Data

- Percentage of female participants:
-for Paralympic Games, Asian Para Games by countries and sports.
- Authority of sport for the person with an impairment, measures and policies
- Good practices in WiS
- Barriers in WiS
- Conducting survey to the female athletes (e.g. motivation of the sports, barriers for the sports)

② Analysis

Understandings of the actual situation and challenges of own country

③ Planning and setting goals

Targets

2018 Indonesia Asian Para Games
Conducting the workshop/seminar/symposium
*Participation of more than one female leaders
from each participating country



Collaboration with IPC WiS Committee

Set the percentage of participation of female to the
APC project such as GB/Competitions

Harumi OKUBO (JPN)

5) IWBF AOZ 「Women's Development Camp」



IWBF AOZ

Women's Development Camp

Thailand, April 2017

The AOZ is delighted to announce that it is hosting a wheelchair basketball development camp for women players in April 2017 in Chon Buri, Thailand. Arrival is April 16th and departure April 21st.

This camp is for players from Nations that do not have a well established women's program, or have a program in the early stages which needs some help to improve. The camp is designed to teach women the fundamental skills of wheelchair basketball in a fun and stress free environment.

The AOZ has been fortunate to obtain the coaching services of top women's coaches from around the world who will run this camp.

Head Coach of USA, Stephanie Wheeler and Assistant coach of Netherlands Irene Sloof have agreed to attend and take charge of the camp.

Thanks to support from the IPC Agitos Foundation all accommodation and meals costs will be met by AOZ. Travel to Bangkok is at the expense of camp participants. All travel from Bangkok to Chon Buri will be arranged by AOZ.

There is no entry fee for camp participants.

NOWBs are invited to send players and coaches to the camp to learn from these experienced coaches. Individual players and small groups are encouraged to attend. You do not have to send a full team.

Depending upon numbers of applicants, AOZ may have to set a limit on camp participants. So NOWBs are strongly encouraged to advise us as soon as possible of the numbers of players who wish to attend. At this time each NOWB is limited to two coaches.

This is a fantastic opportunity for women players in the AOZ to learn from the very best coaches.

NOWBs are asked to support their women players and make every effort to allow them to attend this camp. Please complete the following form to indicate the number of participants from your country.

If you have any questions please address them to:

Don Perriman
Secretary-General IWBF AOZ
don.perriman@iwbf.org or donwp@yahoo.com

JPC 女性スポーツワーキンググループについて

JPC では、2009 年より、女性パラアスリートの競技活動に関する調査やジャパンパラ水泳競技大会・陸上競技大会におけるキッズルーム運営などを継続的に実施してきました。2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、様々な強化策が講じられていますが、女性アスリートが抱える課題に対し、障がい者アスリートへの対応は未だ十分とはいえない状況です。さらに、女性パラアスリートが常にベストコンディションで競技に臨めるよう、彼女たちを支える指導者・スタッフへの啓発も含め、対策を講じていかなければならないというニーズも高まりつつあります。

そこで、これらの課題やニーズに主体的に取り組むため、「JPC 女性スポーツ委員会」の設立を目指し、平成 28 年 4 月より「JPC 女性スポーツワーキンググループ」を立ち上げました。女性アスリートへの婦人科調査もその一環であり、この報告で結論付けた通り「競技力向上を目的とした女性アスリートのコンディショニングに関する教育啓発活動及び、症状に応じた支援が必要である」という課題が明確になりました。

平成 29 年度より始動する「JPC 女性スポーツ委員会」では、女性アスリートの国際競技力向上に向けた調査研究、女性アスリートや競技団体への教育・啓発活動、子育て支援、各組織との連携・相談体制の構築など、女性アスリートや競技団体が自発的に取り組んでいけるような活動を実施します。女性アスリートがより良いコンディションで競技に臨み、最高のパフォーマンスを発揮できる未来を目指し、取り組んでまいります。

平成 28 年度 JPC 女性スポーツワーキンググループ メンバー

能瀬 さやか（国立スポーツ科学センター 産婦人科医師）

桜間 裕子（順天堂大学女性スポーツ研究センター シニアマネジャー）

（事務局）

中森 邦男（JPSA 強化部長／JPC 事務局長）

黒田 美穂（JPSA 強化部強化支援課課長代理／JPC 事務局）

伏見 みずき（JPSA 強化部強化支援課／JPC 事務局）

リオ 2016 パラリンピック競技大会 女性アスリートへの婦人科調査 報告書

発行日 2017 年 3 月 10 日

発行（公財）日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会
女性スポーツワーキンググループ

